

関西経済レポート(5月号)

- 3月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりの前月比プラス。駆け込み需要の影響もあり、1-3月期は前期比+2.1%と6期連続の増産。
- 4月の輸出額は前年比+8.7%と14カ月連続の増加。輸入額は駆け込み需要の反動減により同+2.7%と前月から伸びは大幅減速。結果、純輸出額は2カ月連続の赤字も、赤字幅は前月から大幅縮小した。
- 4月の消費者態度指数は5カ月ぶりにわずかに改善。景気ウォッチャー現状判断は3カ月ぶりに悪化に転じるも、先行き判断は5カ月ぶりに改善。
- 4月の大型小売店販売は百貨店を中心に駆け込み需要の反動減の影響が大きい。
- 4月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の前年比プラス。持家を中心に駆け込み需要の反動減の影響がみられるものの、貸家と分譲マンションは好調。
- 4月の有効求人倍率は求人が求職者の伸びを上回ったことにより、1.01倍と前月比プラス。一方、失業率は前月から小幅な悪化がみられるが、雇用情勢は引き続き改善している。
- 4月の公共工事請負金額は前年比2カ月連続のプラス、前月比は4カ月ぶりの大幅プラス。3月の建設工事は23カ月連続の前年比プラスであり、伸びは2桁を維持。
- 4月の中国製造業PMIは、前月から小幅改善し2カ月連続のプラス。4月の中国の輸出額は前年比+0.9%増加し、2カ月ぶりのプラス。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

“[Kansai Economic Insight Monthly](#)”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

	2013年								2014年			
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
生産	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	—
貿易	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↘	↗
センチメント	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘
消費	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↘
住宅	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗
雇用	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↗
公共工事	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗
中国	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↗

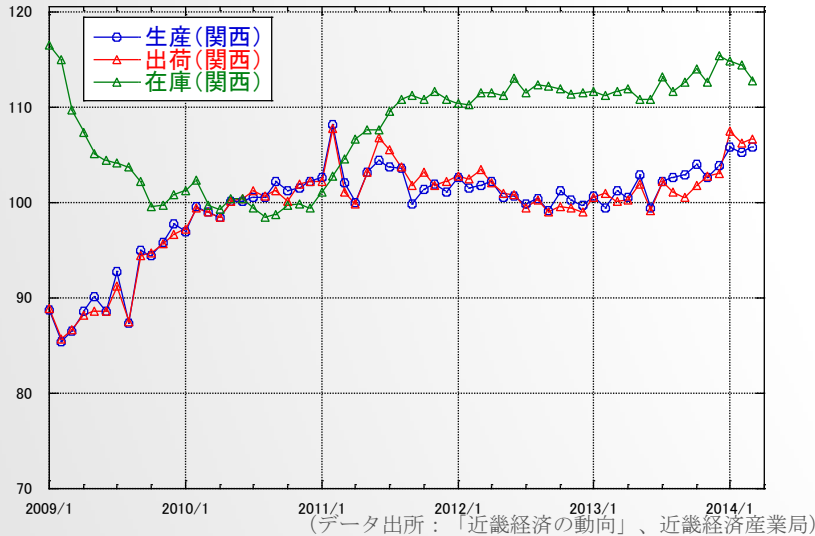
※ 関西経済のトレンドの各月の指標に対する変化を評価しています。

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

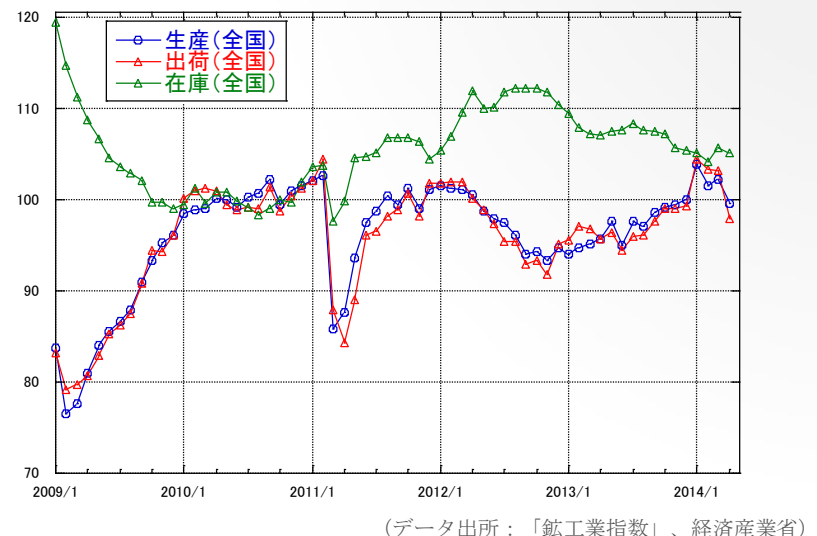
～生産～

鉱工業指数の推移(近畿・2014年3月まで), 2010年=100



- ・ 関西における3月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済)は、生産は105.9で前月比+0.6%、出荷は106.7で同+0.4%といずれも2カ月ぶりの上昇。在庫は112.8で同-1.5%と3カ月連続で下落した。
- ・ 業種別に生産指数をみると、情報通信機械(同+11.6%)、はん用・生産用・業務用機械(同+7.6%)、その他工業(同+3.5%)等が上昇した。一方、電気機械(同-1.0%)、輸送機械(除. 航空機・鋼船・鉄道車両)(同-5.8%)等が低下した。
- ・ 四半期ベースでみると、1-3月期の生産指数は駆け込み需要の影響もあり前期比+2.1%の高い伸びとなった。6期連続のプラス。結果、2013年度は対前年比で+2.7%と2年ぶりに生産が増加した。

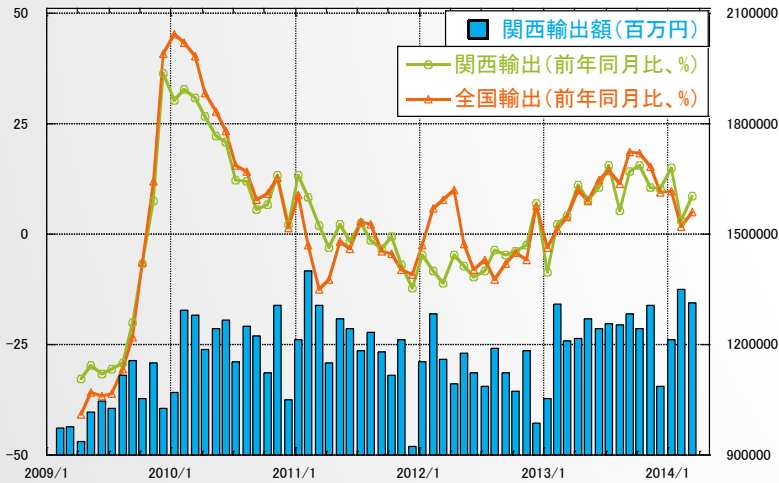
鉱工業指数の推移(全国・2014年4月まで), 2010年=100



- ・ 全国における4月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は99.6となり前月比-2.5%と2カ月ぶりのマイナス。出荷は98.0で同-5.0%と3カ月連続のマイナス、在庫は105.2で同-0.5%と2カ月ぶりのマイナス。駆け込み需要の反動減により、生産は減少した。
- ・ 業種別にみると、輸送機械(同-3.5%)、電子部品・デバイス(同-5.2%)、化学工業(除. 医薬品)(同-3.3%)等が下落。一方、金属製品(同+3.8%)、はん用・生産用・業務用機械(同+0.5%)、非鉄金属(同+1.3%)等が上昇した。
- ・ 生産予測調査によると、5月の製造工業は前月比+1.7%(前月調査+0.1%)と増加も、6月は同-2.0%と減産の見込み。製造工業の見通しが鉱工業生産で実現したならば、4-6月期は前期比-2.4%の減産となる。

～輸出入～

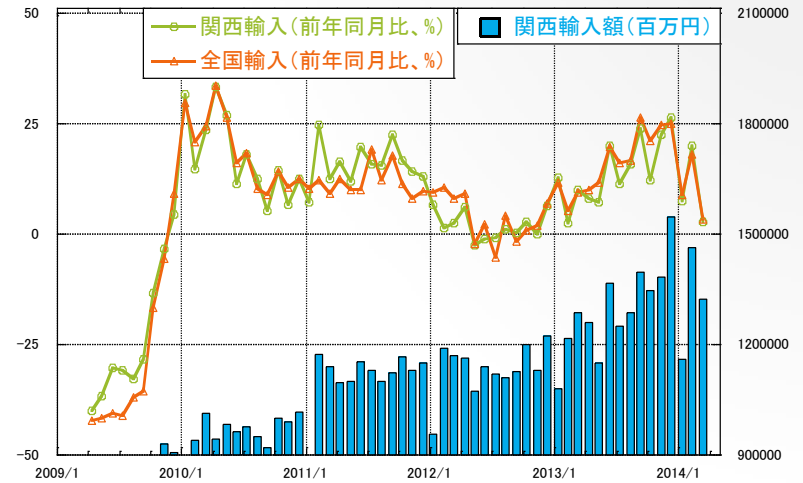
輸出動向（右：輸出額、左：前年同月比）（2014年4月まで）



（データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課）

- 関西4月の輸出額（速報値）は1兆3,141億円、前年同月比+8.7%と14カ月連続の増加。
- 輸出は、鉱物性燃料(単月過去最高額)、科学光学機器(単月過去最高額)、プラスチックを中心に増加している。
- 全国4月の輸出額（確定値）は6兆675億円、前年同月比+5.1%と14カ月連続の増加。
- 関西の地域別輸出は、アジア向け輸出は14カ月連続のプラス(前年同月比+6.1%)。うち、中国向けは2カ月ぶりのプラス(同+7.9%)となった。米国向けは2カ月ぶりのプラス(同+12.5%)、EU向けは11カ月連続のプラス(同+4.4%)であった。

輸入動向(右:輸出額、左:前年同月比)(2014年4月まで)

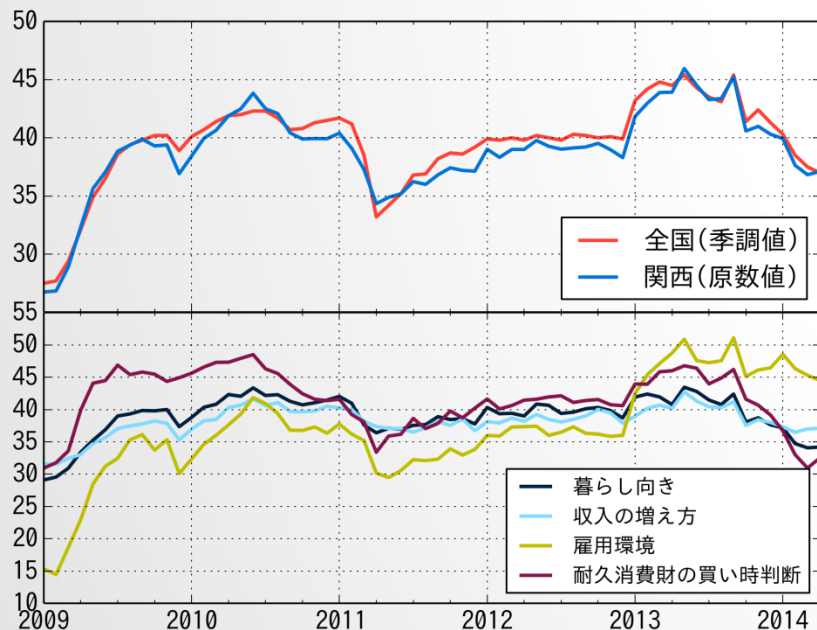


（データ出所：「財務省貿易統計」、財務省）

- 関西4月の輸入額（速報値）は1兆3,221億円、前年同月比+2.7%と16カ月連続のプラス。
- 天然ガス及び製造ガス(単月過去最高)、半導体等電子部品(単月過去最高)、鉄鋼等を中心に、輸入は増加しているものの、消費増税前の駆け込み需要の反動により、衣類及び同付属品、石油製品、原油及び粗油等の輸入が大幅減したこともあり、輸入の伸びは大幅に減速した。
- 全国4月の輸入額（速報値）は6兆8,792億円、前年同月比+3.4%と18カ月連続の増加。
- 結果、近畿圏4月の貿易収支は-81億円と2カ月連続の赤字(前年同月比-89.7%)となったが、赤字幅は前月から大幅縮小した。

～消費者センチメント～

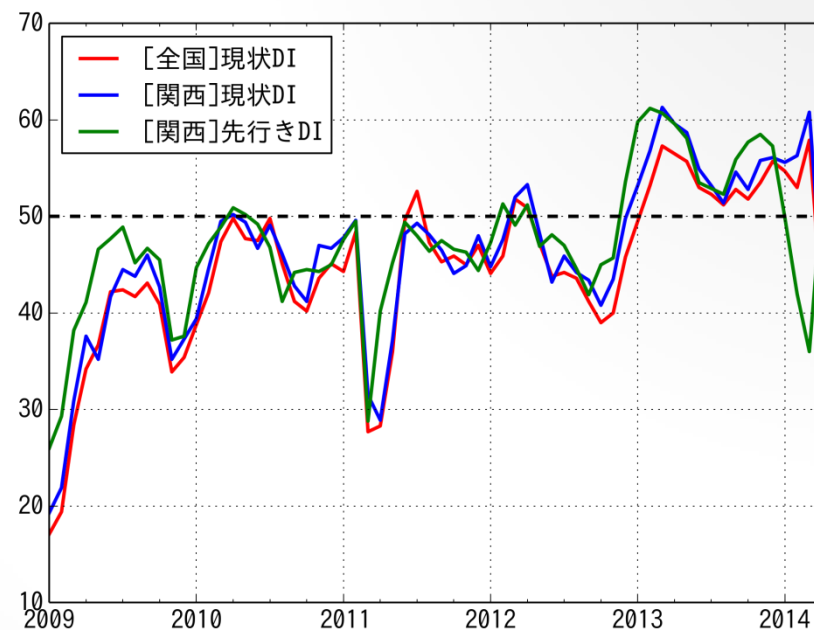
消費者態度指数(2014年4月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成26年5月17日公表)

- 関西の4月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.2ポイントの37.1と、5カ月ぶりの小幅改善にとどまった。
- 同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」は同+0.1ポイントと5カ月ぶりのプラス、「収入の増え方」は同横ばいで推移。「耐久消費財の買い判断」は同+1.5と7カ月ぶりにプラスに転じたが、これは消費増税の影響と考えられる。「雇用環境」は同-0.8ポイントと3カ月連続のマイナス。高水準を維持しているものの、徐々に悪化している。
- 全国の4月の消費者態度指数(季節調整値)は37.0となり、同-0.5ポイントと5カ月連続で前月から悪化。

景気ウォッチャー調査(2014年4月まで)

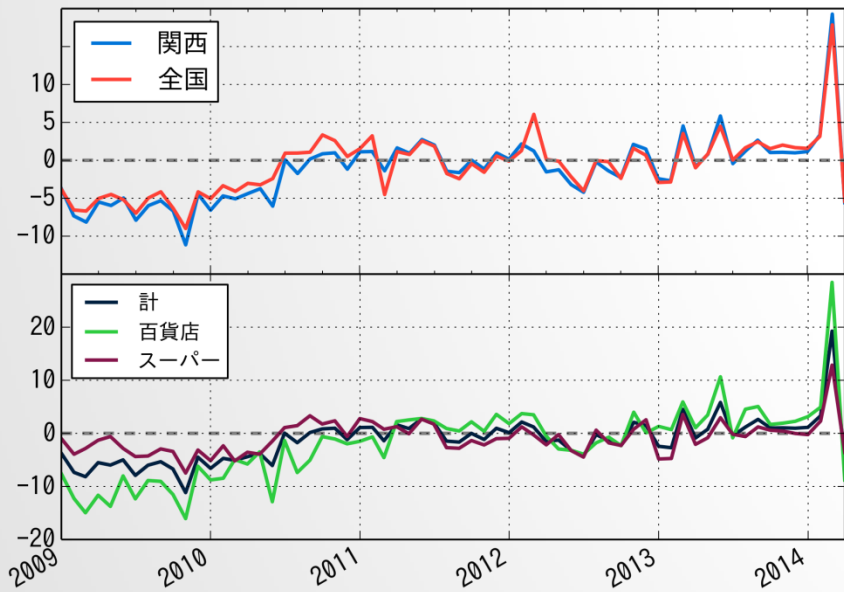


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成26年5月12日公表)

- 消費増税後最初の指標となる関西の4月の現状判断DIは43.6となり、前月比-17.2ポイントと3カ月ぶりに悪化に転じた。
- 百貨店や自動車販売、家電量販店を中心に駆け込み需要の反動減が大きく、2011年3月以来の大幅悪化につながった。
- 全国も同-16.3ポイントの41.6と2カ月ぶりの悪化。
- 一方関西の先行き判断DIは同+15.4ポイントの51.4と5カ月ぶりに改善した。
- 百貨店など消費財関連では明るい見通しとなっている一方で、家電量販店などは比較的厳しいようである。
- 全国も同+15.6ポイントの50.3となり、5カ月ぶりに改善している。

～個人消費・住宅～

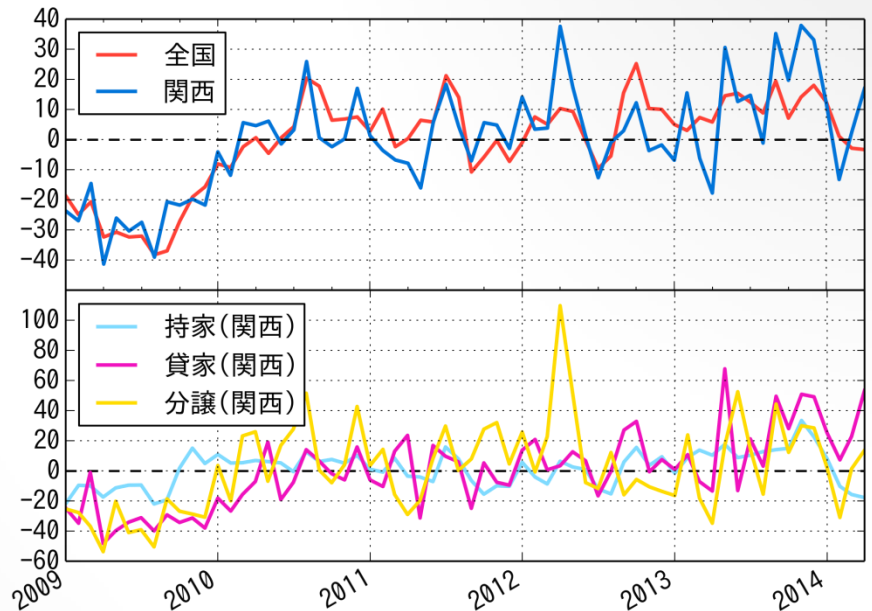
大型小売店販売額(前年同月比:%、2014年4月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成26年5月29日公表)

- ・ 関西の4月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比-5.6%(前月:+19.3%)と9カ月ぶりのマイナス。
- ・ 百貨店も同-8.8%(前月:+28.5%)と9カ月ぶりのマイナス。
- ・ スーパーは同-3.5%(前月:+12.9%)と3カ月ぶりのマイナス。
- ・ 小売販売は百貨店を中心に駆け込み需要の反動減の影響が大きい。
- ・ 全国でも、4月の大型小売店販売額(全店ベース)は同-6.1%(前月:+17.0%)と9カ月ぶりのマイナスとなっている。

新設住宅着工(前年同月比:%、2014年4月まで)

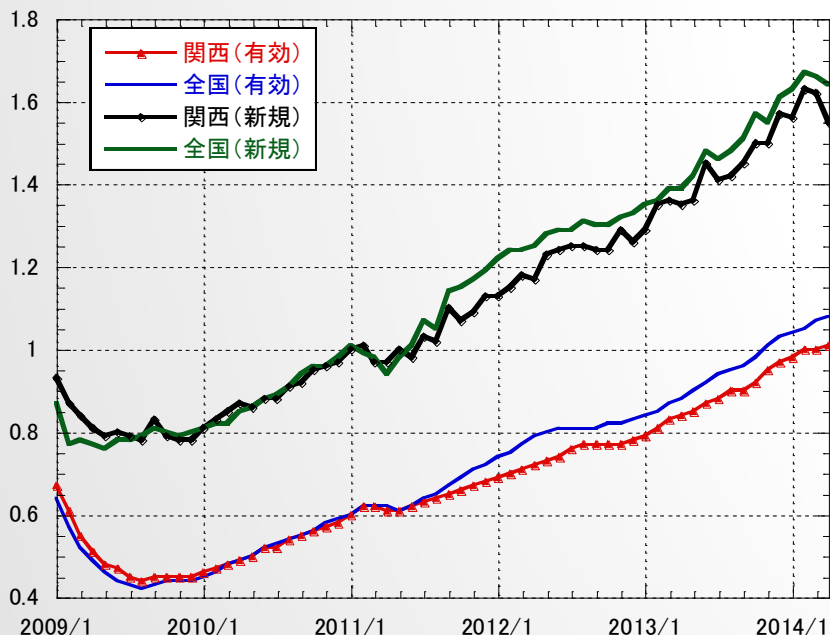


(出所):国土交通省「住宅着工統計」(平成26年5月30日公表)

- ・ 関西の4月の新設住宅着工戸数は12,424戸。前年同月比+16.9%と2カ月連続の上昇。
- ・ 持家や分譲一戸建てを中心に駆け込み需要の反動減が本格化しているものの、貸家と分譲マンションの好調に支えられ、全体では大幅に上昇した。
- ・ 全国は同-3.3%と2カ月連続で下落しており、関西と対照的。
- ・ 利用関係別にみると、持家は同-17.8%と3カ月連続のマイナス、分譲は同+13.7%(うちマンション:同+25.4%、一戸建:同+0.8%)と2カ月連続の上昇。貸家は同+53.4%と9カ月連続の前年比プラス。
- ・ なお4月の関西マンション契約率は73.0%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を31カ月連続(原数値は3カ月連続)で上回り、好調を維持している。

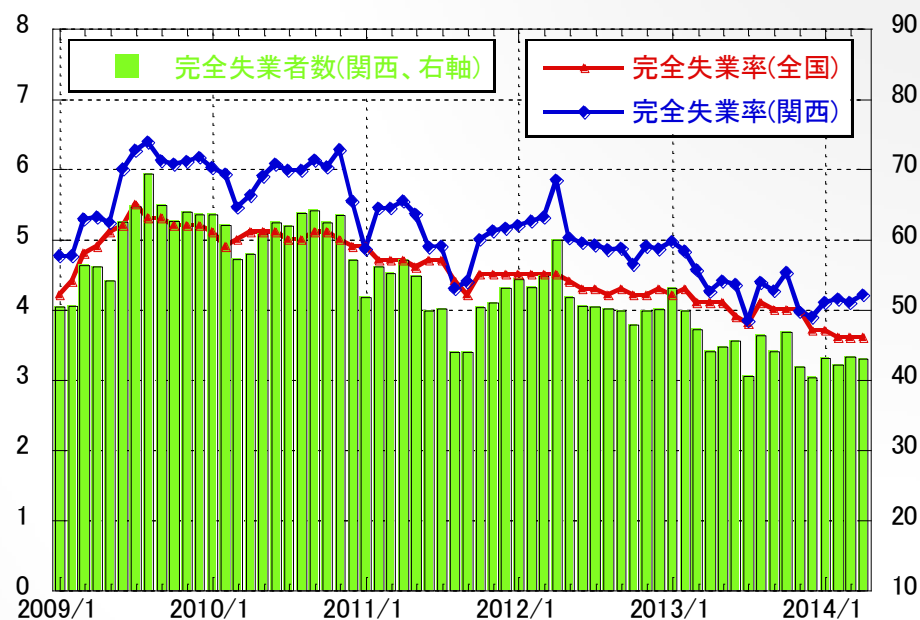
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2014年4月まで）



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(2014年5月30日公表)

完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2014年4月まで）



(出所) 総務省「労働力調査」(2014年5月30日公表)

関西2府4県有効求人倍率(2014年4月)

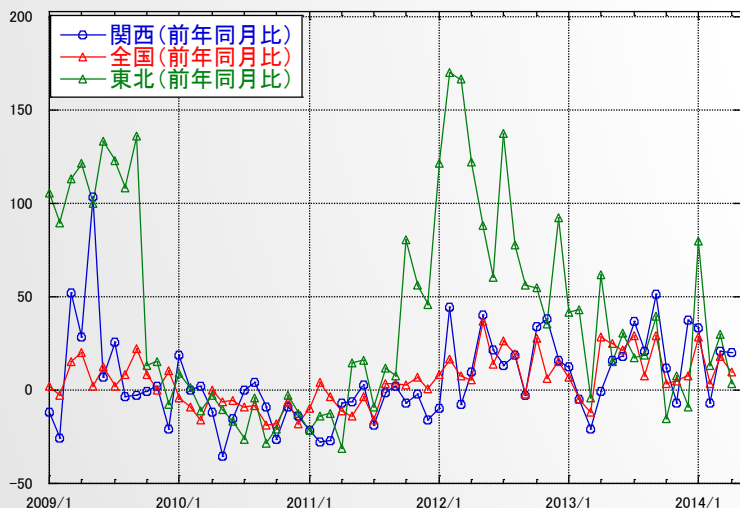
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
4月	1.08	1.01	0.99	1.01	1.09	0.87	0.91	1.01
3月	1.07	1.00	0.93	0.99	1.11	0.85	0.88	0.98

- 4月の関西の有効求人倍率は1.01倍、前月から0.01ポイント上昇しており、製造業中心に引き続き改善。全国は1.08倍で、同0.01ポイント上昇しており、好調を維持。
- 4月の新規求人倍率は、関西は求職者の伸びが求人を上回り、1.55倍と前月より0.07ポイント低下。全国は1.64倍と同0.02ポイント低下し、2カ月連続のマイナス。
- 関西の有効求人倍率を府県別に見ると、大阪府は1.09倍と前月比0.02ポイント低下。その他の府県は全国には及ばないものの、いずれも先月より上昇。

- 4月の関西の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は4.2%となり、前月から0.1ポイント上昇。
- 全国の完全失業率（季節調整値）は3.6%となり、前月比横ばいを維持。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は43.1万人。前月から0.3万人減少した。

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2014年4月まで)

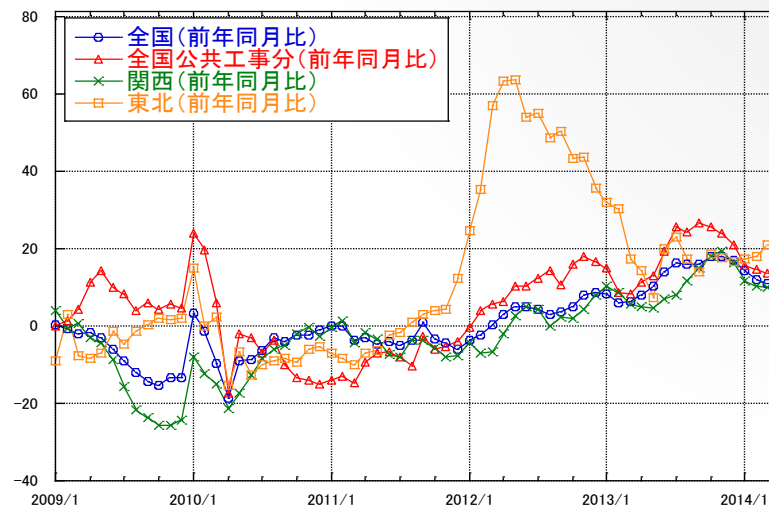


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 関西4月の公共工事請負金額は1,870億円。前年同月比+20.3%と2カ月連続のプラス。
- 全国は1兆7,583億円と同+10%と13カ月連続のプラス。
- 東北は3,721億円で同+3.5%と、41カ月連続のプラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は4カ月ぶりの前月比大幅プラス(関西：同+46.4%)、全国も3カ月ぶりの同大幅プラス(全国：同+29.1%)であった。
- 2014年度関西の公共工事受注額は順調なスタートであった。

建設工事(前年同月比:%、2014年3月まで)

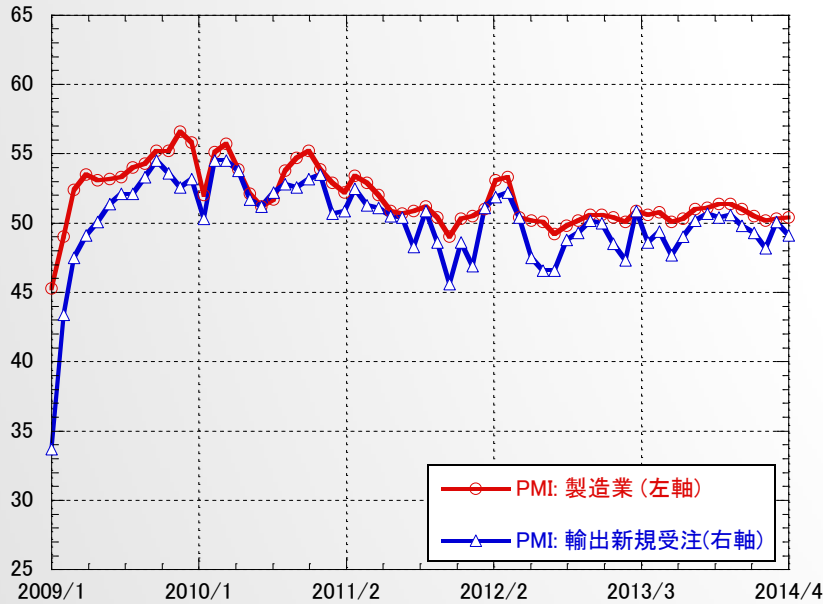


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西における3月の建設工事は5,679億円。前年同月比+10.1%と23カ月連続のプラス。
- 東北は6,382億円と同+21.0%となった。32カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事は4兆5,519億円となり、同+10.9%と26カ月連続のプラスも、伸び率は6カ月連続で減速
- 全国の建設工事(公共)は2兆1,246億円、同+13.8%と26カ月連続のプラス。
- 足下、全国的に建設工事は減速感がみられるものの、2013年度全国、全国(公共工事)は共に対前年比で2桁のプラスとなり伸びは加速した。東北は同様にプラスであるが、伸び率は前年度から大幅に減速した。

～中国経済動向①～

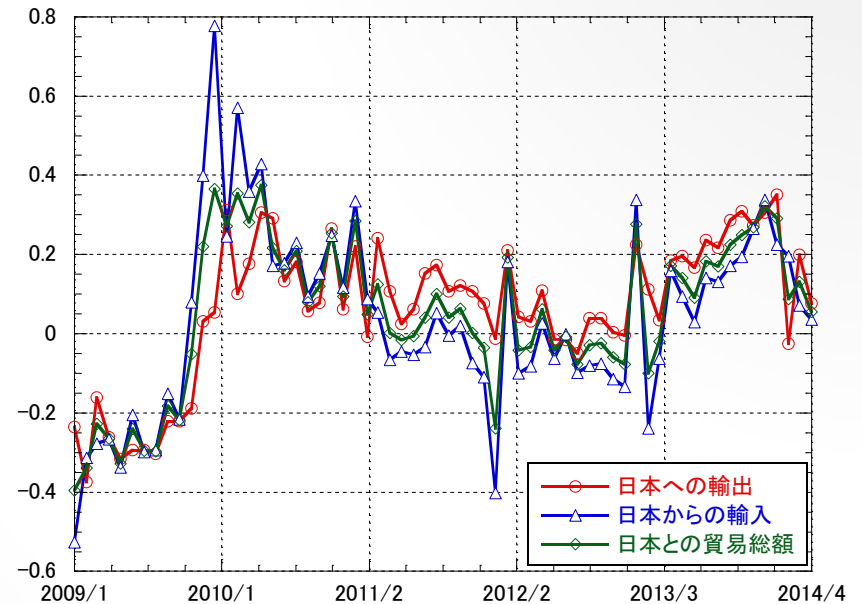
中国製造業購買担当者景況指数 (2014年4月まで:%)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 4月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、前月から+0.1ポイント上昇し50.4となった。2カ月連続のプラス。
- うち、生産指数は52.5と同-0.2ポイント低下し、幾分減速した。輸出新規受注指数は49.1と同-1.0ポイントと大幅に低下し、50を下回った。新規受注指数は51.2となり、同+0.6ポイント上昇した。2カ月連続のプラス。同月の雇用指数は48.3となり、前月から横ばい。2012年6月以来、23カ月連続で51を下回った。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2014年4月まで:%)



出所：中国海关总署; CEICデータベース

- 4月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比+0.9%増加し、2カ月ぶりのプラスとなった。一方、輸入額も同+0.9% (速報値)となり、先月(-11.3%)からプラスに転じた。
- うち日本への輸出額は同+2.6%と2カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同-1.2%と2カ月連続のマイナスとなったものの、下落幅は前月(同-9.9%)から大幅に縮小した。円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+7.7%と前月(同+19.8%)から大幅に減速した。
- 日本からの輸入額は同+3.7%と13ヵ月連続のプラスとなった。

～中国経済動向②～

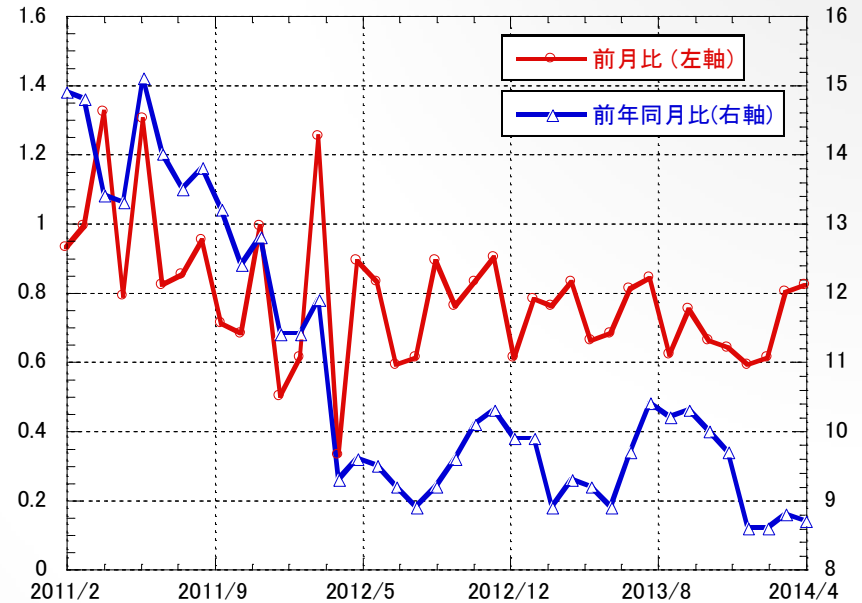
中国固定資産投資動向(2014年4月まで:%)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 2014年1-4月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+17.3%となり、1-3月期(同+17.6%)から幾分減速した。昨年1-8月期 (+20.3%) 以降減速が続いている。
- 産業別に見れば、第1次産業は同+21.2%、第2次産業は同+14.5%、第3次産業は同+19.2%となった。

工業生産動向(2014年4月まで:%)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 4月の工業生産は、前月比+0.8%と3カ月連続で加速した。一方、前年同月比は+8.7%と前月(+8.8%)から幾分縮小し、3カ月ぶりの減速。
- 産業別に見ると、有色金属の製錬・圧延加工業(前年同月比+14.1%)、医薬製品製造業(同+12.0%)、自動車製造業(同+11.5%)、パソコン・通信製造業(同+11.4%)が高い伸びを示す一方で、繊維工業(同+7.4%)、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+7.2%)、電力・熱力生産・供給業(同+2.5%)は比較的低調な伸びにとどまった。